

はじめの一步
—広がる夢—

広島県立広島中央特別支援学校
高等部第3学年 田村 妃奈里

はじめの一步 | 広がる夢 |

普通科 三年 田村 妃奈里

私は、夏休みに角本君と仲田君と私の三人で福山にいる古川さんの所に遊びに行きました。妹が友達といろんな所に行っていたので、「自分もいつか友達とどこかに行ってみたいな。」と思っていました。自分が夢に思っていたことが叶い、前日には、とびはねたいくらいこうふんしていました。

私はアストラムラインで新白島に行くところまでは慣れているので、そこまで一人で行き、改札口を出たところで待ち合わせをしました。ヘルパーさんを利用せずに友達と遠くに出かけるといふのは初めての体験だったので、「これから大冒険が始まるな。」とワクワクしてきました。

切符を買おうとして券売機の所にいた駅員さんに手帳を見せて買い方を聞くと、「ここでは買えないよ」と言われてしまいました。慣れていないので窓口が分からず、二人と相

談しながら探してやっと買うことができました。窓口で手帳を使って自分で切符を買ったのは初めてのことでした。一人で買う時はすごく緊張するけど、友達と一緒にいたのでもそんなに緊張はしませんでした。暑くて切符売り場が遠かったので、電車に乗った時はもうエネルギーを出し切った感じがありました。出発して時間がたち「今、私は友達と遠くへ旅をしているんだ。」という実感がわいてきました。うれしさのあまり夢を見ているような気がしてきたので、仲田君たちが話に夢中になっている間に、自分の顔を少し引っ張ってみました。夢ではないと分かった時「やっと自分が思っていたことがかなったんだ。」という感情がこみ上げてきました。

福山までの直通がなかったので、途中三原で乗り換えしました。乗り換えた後、古川さんからメールが来て「後どれくらいで着く？」と聞かれたので「分からないけど今電車の中だよ。」と打ち返しました。そのメールを見

て「この電車早く着かないかな。」と思い、
そわそわしてきました。福山駅に着くまでが
すごく長く感じました。

無事福山駅に着き、古川さんと合流した時、
「やっと着いた！」とうれしくなりました。

その後古川さんのお母さんに車でゆめタウン
まで送ってもらい昼食を食べました。私は
友達とだけで夕食をしたことがなかったし、
自分のお財布と相談しながら注文をしたこと
もなかったので、「いくら出したらちようど
いいおつりがくるかな。」と考えてドキドキ
しました。少し大人になった気分でした。

食後に鞆の浦という「崖の上のポニヨ」の
モデルとなったといわれている所にみんなで
行きました。鞆の浦でなごんでいる間に時間
が過ぎ、すぐ帰る時間になってしまいました。

「時間がたつのが早いな。」「もっと遊びた
いな。」と、さみしくてせつなくなりました。

帰りの電車の中で、その日にとった写真を
見ながら、「もう少し古川さんと一緒に遊び

たかった。」と思いました。新白島に着き改札口でみんなと別れて帰るときは、長旅が終わった感じででした。「何で行きより帰りの方が早いんだろう？」と思いました。

この旅を通して切符を買うことや外食など初めてできたことがありました。今までは、友達と遊ぶと言っても親や妹と一緒に出かけていたので、自分だけで友達と出かけるのは新鮮で、すごく大冒険をした気分でした。それに、車ではなく電車に乗って遠くへ行くことは、将来必要になってくるから、良い体験だったし、自信にもなりました。

私は、高等部を卒業したら、もつといろんな世界を知って、いろんな人との関わりを広げていきたいです。今回は友達と一緒に行動ができたけど、いつか自分一人で行動ができるようになって、自分が働いてためたお金で、ほかの県にいる友達にも会いに行きたいです。

この旅は私にとって、夢を叶える「はじめの一步」だったと思います。

〈指導者の言葉〉

国語科の「表現しよう」という单元の中で取り組んだ作文です。身近な出来事や学校生活を振り返り、表現や構成を工夫して作文を書くという活動を通して、「人に伝わる表現」の学習に取り組みました。

まず、他校の生徒作品に学び、「出来事だけでなく、その時の気持ちを具体的に書こう。」「心の声を書こう。」ということ意識して書き始め、時系列で一本調子だった下書きから主題には必要ない部分に気付いたり、気持ちがより伝わるよう、背景となる経緯を書き加えたりしました。

生徒には視覚障害があり、長文を書く負担感を減らすため、パソコンを使って記述を進めました。文字の拡大はもちろん、文章を読み返したり直したりすることも無理なくできるため、生徒が主体的に読み返し、抵抗なく意欲的に推敲することができました。

この作品では、ずっと願っていたことがやっとかなった高揚感、緊張、体験を経てちょっと大人になった気分、楽しみが終わった時の気持ち等が素直な言葉で語られ、行きと帰りの心理的時間の長さについての記述なども見られます。ただ「楽しかった。」だけではない貴重な体験であったことが分かります。

経験の意味を振り返り、自信をもち、次の夢を描く。自分の夢を叶えるのはこういうところから始まるのだと教えてくれる文章です。